◆　目黒区　◆

中小企業の景況

平成２８年度第１･四半期
（平成２８年４～６月）

目黒区　産業経済部　産業経済・消費生活課

目　　次

１．都内中小企業の景況　1
２．目黒区内中小企業の景況（平成 28 年 4～6 月期）　2
　（１）今期の特徴点　2
　（２）今期の景況と来期の見通し　4
　　製造業　4
　　卸売業　8
　　小売業　11
　　サービス業　14
　　建設業　17
　（３）調査員のコメント　20
３．日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 28 年 6 月）　23
４．特別調査「中小企業における事業上の情報収集・発信について」　26
５．中小企業景況調査　比較表・転記表　29

調 査 の 概 要

１．調査時期　　平成 28 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）

２．調査方法　　面接聴取調査

３．調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製　造　業	96	89
卸　売　業	28	28
小　売　業	50	49
サ ー ビ ス 業	56	54
建　設　業	37	36
合　計	267	256

調査実施機関　一般社団法人東京都信用金庫協会

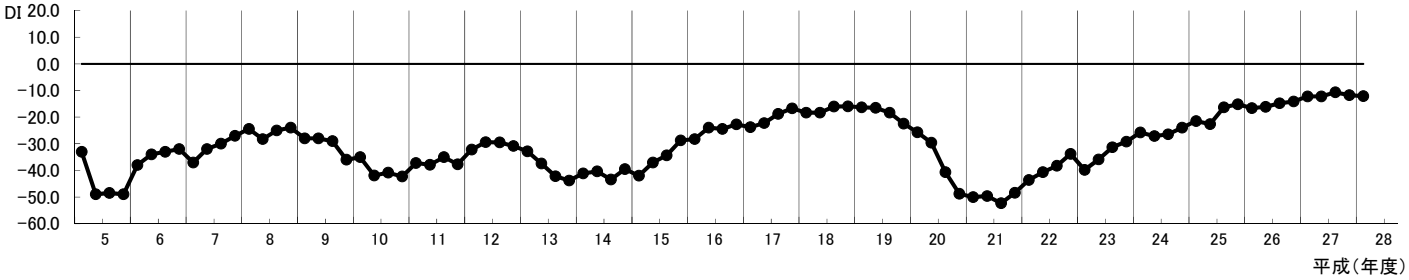
分析実施機関　株式会社帝国データバンク

１．都内中小企業の景況（平成 28 年 4～６月期）

（一般社団法人　東京都信用金庫協会調べ）

小売業・サービス業、やや厳しさを増す。～来期は不動産業が悪化に転じると予想～

都内中小企業景況・６業種合計 DI



業況判断 DI(季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合)は-12.1(前期は-11.7)と前期に比べ 0.4 ポイント悪化した。業種別に見ると、不動産業でわずかに良好感が増し、小売業・サービス業でやや厳しさを増した。

来期は、建設業で業況が上向き、サービス業で水面下ながら持ち直し、不動産業で悪化に転じると予想している。

	前　期	今　期	増　減	来期予想	今期との増減
製造業	−12.8	−11.9	0.9	−10.6	1.3
卸売業	−10.7	−11.7	−1.0	−10.7	1.0
小売業	−25.2	−27.0	−1.8	−26.5	0.5
サービス業	−10.7	−12.7	−2.0	−10.5	2.2
建設業	7.3	6.8	−0.5	8.9	2.1
不動産業	0.4	3.0	2.6	−1.9	−4.9
総合	−11.7	−12.1	−0.4	−11.2	0.9

＜製造業＞

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はわずかに持ち直し、受注残は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で、原材料価格は多少落着きを見せた。

業種別に見ると、「輸送用機械」は幾分好調感が強まり、「化学工業」は前期並の良好感が続いた。「ゴム製品」「皮革関連」はかなり厳しさが和らぎ、「プラスチック」「一般機械」「建設用金属」「食料品」「プレス・メッキ」「金属製品」「木材・家具」はやや持ち直した。「電気機械」は若干悪化に転じ、「精密機械」「繊維・衣服」はわずかに厳しさを増し、「紙・紙加工品」「印刷関連」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くとみている。売上額は減少が一服し、受注残・収益は今期並の減少が続くと予想している。

＜卸売業＞

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はやや低迷した。価格面では、販売価格は大きく下降に転じ、仕入価格は多少落着きを見せた。

業種別では、「建築材料」「繊維・衣服」は水面下ながら大きく改善し、「鉱物・金属材料」はわずかに厳しさが和らいだ。「化学製品」はやや低迷し、「機械器具」は大幅に水面下に落込み、「食料品・飲食料品」はかなり深刻さを増した。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くとみている。売上額・収益は今期同様の減少幅で推移すると予想している。

＜小売業＞

業況はわずかに厳しさを増した。売上額・収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格はやや下降を強め、仕入価格はわずかに上昇が弱まった。

業種別では、「医薬品・化粧品」は水面下ながら大幅に上向き、「繊維・衣服・身の回り品」はわずかに厳しさが和らいだ。一方、「ガソリンスタンド・燃料」「飲食店」「飲食料品」「書籍・文房具」「カメラ、時計・眼鏡」は幾分業況感が落込み、「スポーツ用品・玩具」は大きく低調感を強めた。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くと予想している。売上額・収益は水面下ながら改善するとみている。

＜サービス業＞

業況はわずかに厳しさを増した。売上額・収益はやや減少を強めた。価格面では、料金価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は前期同様変化なく、「洗濯・理容・美容」は前期同様の厳しさが続いた。「自動車整備・駐車場」はやや低調感を強めた。

来期の業況は厳しさが和らぐとみている。売上額・収益はともに水面下ながら改善するとみている。

＜建設業＞

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・受注残・施工高・収益は前期同様の増加で推移した。価格面では、請負価格はやや上昇が弱まり、材料価格は大きく上昇幅が縮小した。

業種別に見ると、「職別工事」「総合工事」は前期並の良好感が続き、「設備工事」はわずかに弱含んだ。

来期の業況は良好感が増すと予想している。売上額・受注残は強含み、施工高・収益は今期同様の増加が続くとみている。

＜不動産業＞

業況はわずかに良好感が増した。売上額はやや強含み、収益は前期同様の水準で推移した。価格面では、販売価格はわずかに上昇が弱まり、仕入価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は前期並の良好感が続き、「不動産代理・仲介」はわずかに好調に転じた。

来期の業況は悪化に転じるとみている。売上額は減少の兆しが見え、収益は水面下に落込むと予想している。

［注］

○D.I（Diffusion Index　ディフュージョン　インデックス　の略）

D.I（ディーアイ）は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去 5 年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。